

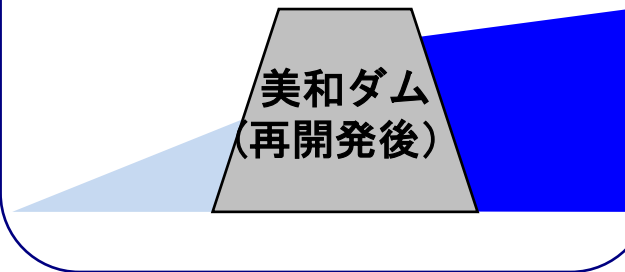
- 戦後最大となる昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、再開発後の美和ダムは、基準地点である天竜川本川の天竜峡での流量を約 $200\text{m}^3/\text{s}$ (約 $70\text{m}^3/\text{s}$)※減らすことにより、河川の水位を約 0.6m (約 0.2m)※下げることができる。 ※ () は洪水調節機能の強化分を示す

戦後最大規模相当の洪水が発生したら

- ダム地点では (ピーク時)

調節後流量
 $410\text{m}^3/\text{s}$

流入量
 $660\text{m}^3/\text{s}$



- 基準地点天竜峡 (139.0KP付近) では
流量減少 約 $200\text{m}^3/\text{s}$ (約 $70\text{m}^3/\text{s}$)
水位低下量 約 0.6m (約 0.2m)

